

## ウォータージェットによるはつり作業で死亡事故発生！

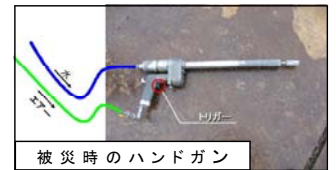


鉛直方向への作業状況(被災時は水平作業)

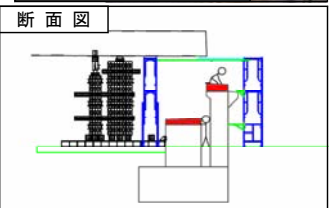
1次下請け業者が、橋脚嵩上部においてウォータージェットにより既設コンクリートの除去作業を行っていた作業箇所へパトロールに来たところ、除去作業を実施していた作業員が左足大腿部を被災し、意識不明で倒れているのを見つけた。

被災者は救急車で緊急搬送されたが、病院で**裂傷による失血のため死亡**されました。

事故発災時の目撃者がいないため詳細は不明ですが、事故当時の作業箇所は非常に狭く、ウォータージェットのハンドガンの持ち替えが必要な状況であったことから、被災者がハンドガンを持ち替える際に、トリガーに何らかの力が加わり、ウォータージェットが誤って噴射された可能性が考えられます。



被災時のハンドガン



断面図

### 〔再発防止対策(案)〕

- ・ハンドガンを誤操作の生じにくい両手操作の「ダブルトリガー」に変更する
- ・より防護能力の高い「防護服」を着用する。
- ・作業時以外は必ずウォータージェットを停止する。

## ウォータージェット以外も丸のこや草刈り機等危険性の高い工具を使用する作業について安全点検を！

### 要注意！ 草刈り作業中の事故が頻発！！

昨年度、多発した草刈り機による除草作業中の事故が、今年度も既に4件(昨年同時期5件)発生しています。作業前の障害物の確認、作業中の立入禁止措置、飛び石対策など事故防止対策を確実に実施し、事故発生を防止しましょう。



① 事故現場写真

#### ① 大型草刈機による飛び石で公園利用者が右足を負傷

大型除草機械にて河川の高水敷の除草作業を行っていた際、すぐ隣の河川公園に利用者を確認したため、吹出口の方向を変えようと方向転換を行ったが、機械の吐出口から飛散した石(5cm程度)が公園利用者の右太ももにあたり負傷[打撲:全治約10日間]させた。

受注者は、刈草を集草せずまき散らす目的で吐出口の安全カバーを外して除草作業を行っていたため、飛び石が発生した。



② 事故現場写真

#### ② 堤防除草中、肩掛け式草刈り機の刃先が同僚の足首に接触

肩掛け式草刈り機で堤防法面の除草作業中に、一緒に作業をしていた作業員に近寄りすぎたため、刃先が右足首に当たり負傷[裂傷:詳細確認中]させた。



③ 被災写真

#### ③ 庁舎内の除草中、肩掛け式草刈り機の刃先が給水管に接触

庁舎周辺を肩掛け式草刈り機にて除草していた際、刃先が給水ホースに接触し、損傷(漏水)を与えた。

作業員は作業前に事前調査でホースの存在を確認し、ホース等の近くでは刃先を紐に交換しての作業を基本としていたが、通常の刈り機使用時にホースに気付かず近寄りすぎたと思われる。

# 十分な予防対策で熱中症を防止!



例年、梅雨明け後から本格化する暑さにより熱中症が多発します。特に閉鎖された空間、湿度の高い場所、日光を遮蔽するものがない作業箇所では、十分な予防・対策を実施して、熱中症の発症を防止しましょう。



## ●熱中症とは・・・

高温高湿等の環境下で、体温調節や循環機能が障害を受けたり、水分塩分代謝の平衡が著しい失調をきたして、作業遂行が困難又は不能に陥った状態の総称。

## ●熱中症の4パターン

**熱射病**・・・体温上昇のため中枢機能に異常を生じた状態で、**意識障害**

**熱けいれん**・・・大量にあせをかき、水だけを補給して血液中の塩分濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴った**けいれん**がおこる。



**熱虚脱**・・・皮膚血管の拡張による循環器不全で**脈が速くて弱く**、呼吸回数の増加、顔面蒼白、血圧低下、一過性の意識喪失などがおこる。

**熱被はい**・・・脱水や塩分の不足による症状で、脱力感、倦怠感、**めまい、頭痛、吐き気**などがみられる。



## 環境省 熱中症予防サイト

(上記QRコードを携帯電話カメラ等で読み取って、ご利用ください)

## ●熱中症を防止するためには・・・

### (1)作業開始前の対策

- 1) 気温・湿度等気象条件を把握する。  
→ 前日より**急激な気温の上昇が予想される日は要注意**
- 2) 朝礼時に作業員の健康状態をチェックし、以下に該当する者は暑熱環境下の作業から離脱させる。  
→ ① 風邪・下痢などの体調不良、  
② 前日飲酒、  
③ 食事未摂取、  
④ 睡眠不足
- 3) 熱中症の諸症状、予防方法、救急措置、事例について教育を行う。

### (2)作業中の対策

- 1) 通気性のよい帽子や吸湿性や通気性のよい衣服を着用する。
- 2) **定期的に涼しい日陰や休憩施設で十分な水分と塩分を補給する。**  
→ スポーツドリンクや身体を適度に冷やすことのできる水、熱中症用飴、冷たいおしぼりなどを常備
- 3) 作業員同士で互いに注意し、**熱中症の「初期症状」が表れた段階で速やかに作業から離脱させる。**  
→ 巡視などでも作業員の健康状態を定期的に確認
- 4) 著しく作業環境が過酷な作業箇所において、日よけや送風機等を設置する。
- 5) **WBGT値(暑さ指数)を活用する。(専用計測機や環境省HPを参照)**

### 熱中症の予防方法



熱中症の発症が認められたら、躊躇せずに医療機関で受診して下さい

## 7月1日～7日は、「全国安全週間」です

(主唱：厚生労働省、中央労働災害防止協会 協賛：建設災害防止協会他各災害防止協会)

スローガン『ルールを守る安全職場 みんなで目指すゼロ災害』

トップの強力なリーダーシップのもとに、末端の作業員を含む全ての関係者が一丸となって労働災害の防止に万全を期すようお願いします。